

2025年度 サミットアカデミーエレメンタリースクール佐久 学校関係者評価委員会

| | |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 教育理念「自由と愛」のもと、児童・生徒一人ひとりが、それぞれの個性が尊重され楽しく充実した学校生活を送ることを通して、日本人としての資質とグローバルに活躍できるマインドとスキルを兼ね備え、世界の舞台で自分らしく地球に貢献できる人材となることができる教育環境の整備を積極的に推進する。 |
|--------|---|

| 評価項目 | | 学校関係者評価委員よりご意見 | 次年度検討課題や目標 |
|------|---------------|--|--|
| 1 | 学校運営全般 | 子どもが楽しく通えていることが一番大切である。保護者（評価委員）として、サミットでの英語学習が形になり、子どもに英語力がついてきていると感じる。一方で、昨年度と比較したときの次の課題は①子どもの英語力に差がついてきて、英語学習が身につけていると実感できていない保護者もいること。②開校から2年が経ち、学校と家庭がよりコミュニケーションをはかることが必要であることにあるのではないかと。 | ①イマージョン教育をすすめるにあたって、英語力の差が大きくなることは課題であるため、少人数指導など児童の実態に合わせた授業体制を構築する。 ②学校と家庭のコミュニケーションをはかるため、学校がすすめているプロジェクト等について、学校だよりを通してロードマップとして共有する。 |
| 2 | 学習指導 生活指導 | 児童がイマージョン、デュアルランゲージプログラムを通して英語に親しみ、英語を学ぶことができている。 | サミットアカデミーエレメンタリースクール佐久1学年から佐久長聖高等学校まで、各学年の英語学習の到達目標を見える化したカリキュラムを策定する会議を発足する。 |
| | | 児童が体験を通して探究的、問題解決的に学習をすすめることができている。 | ①月に一度、サミットデーウィークを設け、各学年が探究的な学びに没頭できる時間をつくる。それを有効活用するために、探究に関連する教員研修を充実させる。 ②保護者の手を借りながら引率を含め、探究的な学びの充実をはかる。 |
| | | 児童は実態に応じてグループワークや個別指導を選び、協働的に学ぶ環境を得ることができている。 | 5,6年生は「サミプロ」を行い、個人探究の時間を設けている。3年目となる来年度、より充実した内容となるようにする。 |
| 3 | 生徒指導 | 児童が自ら考え、自律的に行動できるよう日常的に指導することができている。 | 学習機会の保証は学校として第一義に考えなければならないことである。2025年度に引き続き、学校での組織的な生徒指導体制の構築を行い、外部専門家の知見も入れながら、児童の学習環境の改善に努め続ける。 |
| | | 学校での活動を通して、児童が豊かな人間関係をつくることができている。 | 今回の評価委員会においては、 生徒指導に関連するご意見は特になかった。 |
| | | 児童の問題行動が起こった際には、組織的に迅速に対応することができている。 | |
| 4 | 保護者連携 地域連携 | 広く地域や保護者にひらかれた学校運営を目指し、学校に関係する人がその運営に携わりやすい風土環境を築くことができている。 | 保護者に対しては各学年からの情報発信や学校だよりなど各種ツールを使い、児童の様子を伝え続ける。地域に対しては、学校説明会、学校行事を通して、児童が地域と触れ合う機会を創出する。 |
| | | 幼小連携や小中連携など、児童の成長の縦のつながりを意識した取り組みをできている。 | ①学校行事や日常の学習から中学生と関わる機会を意図的に計画する。 ②中学校の図書館を活用するなど、児童が中学校校舎へ行く機会を意図的に計画する。 |
| 5 | 学校安全 | 児童の安全に配慮した学校運営と施設管理ができています。 | ハード面、ソフト面ともに、児童の安全に配慮した学校運営を継続する。 |